

〔研究ノート〕

SPレコードは語る(1)

増 田 喜 治

名古屋学院大学リハビリテーション学部

要 旨

本稿では筆者秘蔵の12インチ片面盤レコードの68枚の曲名, 演奏家名, 伴奏者名, 作曲者名, レコード会社名, 録音年代, 録音時間, 重さ, レーベルに表示される情報などを調査し, そこから得られた知見により1世紀前の音楽の世界を考察する。

「レコードを聴くは, 不滅の魂との饗宴なり」

エミール・ベルリーナ (1888)

キーワード：ラップ式録音, 12インチ片面盤, SPレコード, レーベル

78 RPM records' talk (1)

Yoshiharu MASUDA

Faculty of Rehabilitation Sciences
Nagoya Gakuin University

発行日 2019年1月31日

はじめに

近年は好みの音楽を手軽に聞ける便利な時代となった。アマゾンミュージックでは4,000万曲、アップルミュージックでは5,000万曲のデータベースから自由に選択して聞いても月額980円である。もはや選択ではなく垂れ流れる様に音楽に接触できる時代となった。筆者はTuneIn Radioのアプリ¹⁾を利用しRadio Swiss JazzやRadio Swiss Classics等をiPhoneに録音して様々な生活の場で流している。しかし、大洪水の様に音楽が流れる状況で、音楽を深く鑑賞する気持ちと余裕は何処にあるのかと考えさせられる。筆者はこの30年間、色々な雑音が伴うSPレコードに心を奪われている。なぜならデジタル音には感じられない、レコードに刻まれている音の深みがそこにあり、蓄音器²⁾を回しながら一枚一枚ゆっくりと聴けば、至福の音の世界が誕生し、ついついと夜更かしをするのである。通常は音を聴くことに集中し、レコードのレーベルにはそれ程関心を持つことは無かったが、今回はレコードのレーベルを解読することにより、音の世界への探検を試みたい。

1. 12インチ片面盤について

エジソンが蓄音器を発表した1887年から1920年頃まで時期をラップ式録音とか機械吹き込みと呼ばれ、電気やマイク無しの録音である。本稿では、この録音方式をアコースティック録音（以後ARとする）とする。今回調査した12インチ片面盤の68枚は1906年から1918年のものである。録音年代の調査に際しては、カリフォルニア大学の図書館が提供している Discography of American Historical Recordings³⁾ を参考にした。ARレコードには片面盤を合わせた両面盤なるものが多く存在するが、より初期のプレスの片面盤レコードに限定した。

生明(2010)は、「機械吹き込みは、『吹き込み』という名称が示すように、歌や演奏を大きなラップに向い、その音の振動をカティング針に伝えて、ワックスを薄く張った円盤に音の溝を刻んでいくというもので、まさに物理的工程そのものであった。そのため小さい声や音、遠くに置かれた楽器の音などは記録することは難しく、特に強弱のある歌や演奏は吹き込みには向いていなかった。」と述べている。記録し難い音の世界の録音に挑戦した1世紀前の技術者に敬服するのみである。彼らの卓越した技により、ARレコードは音楽だけでなく、当時のスタジオの雰囲気をもそのまま描写しているようだ。単なる音の録音だけでは無く、その環境、伴奏楽器の位置や演奏家の動きなどのアナログ的な情報がそのまま伝わってくるのである。エジソンが蓄音機をこの世に発表した翌年の1878年に日本語で「蘇言機」、「蘇音機」と呼ばれた所以がここにある。

調査対象とした中で、一番多いのはEnrico Carusoのレコードである。米国ビクター社のレコード

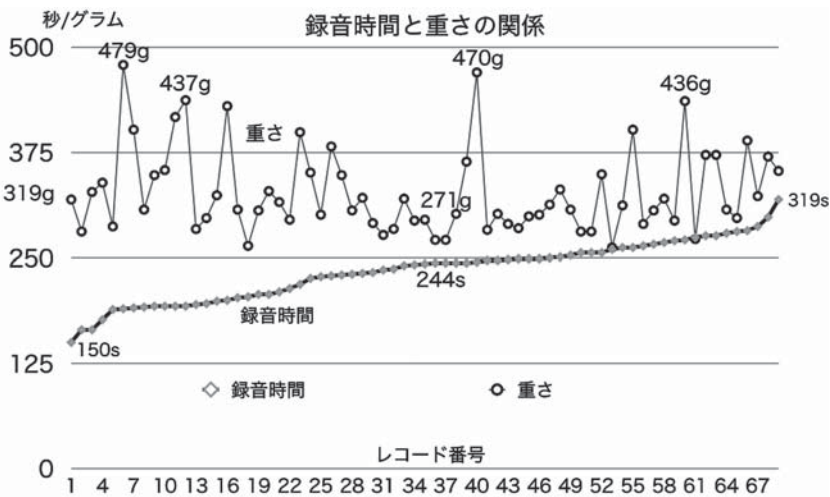
- 1) 有料バージョンでは、録音機能があり、筆者はこれを活用している。このTuneIn Radioは10万以上のラジオ局から世界最大規模のスポーツ、ニュース、音楽、トークのラジオ局コレクションを提供している。
- 2) 筆者は蓄音器を楽器として考えて、取り扱っている。本稿では「蓄音機」は極力使用しない。
- 3) <https://adp.library.ucsb.edu/index.php>

が15枚、英国グラモフォン社のレコードが2枚、ドイツグラモフォン社のレコードが1枚の合計18枚である。ソプラノのNellie Melbaでは、英国グラモフォン社が5枚、米国ビクター社が3枚の合計8枚のレコードである。テナーのJohn McCormackは、英国グラモフォン社が4枚、米国ビクター社が1枚の合計5枚である。バイオリンのMischa Elmanは卓越した助奏者としての録音が米国ビクター社で5枚ある。圧倒的にCarusoが多いのは、筆者が魅せられているだけでなく、当時のミリオンセラーの証として、レコードの品数がSPレコードの専門店に多く、ついつい購入するのが理由の一つである。

グラフ1はレコードの録音時間とその重さとの関係を表している。録音時間は150秒から319秒の間で、一曲の録音時間を表示している。レコードの重さは最小値264gから最大値の479gである。通常重たいと言われるLPレコードでも、140gから220g程度であり、ARレコードはLPレコードの2倍から3倍の重さになるにも関わらず、片面盤では一曲、両面盤で二曲した収録されていないのである。

英国グラモフォン社から1910年に発売され、John McCormackによる“Snowy breasted Pear”(Robinson)の録音時間が最長の319秒である。1910年代で約5分19秒のAR録音は驚異的であり、技術度の高さが示されている。これは録音時にCCという接頭辞が表記⁴⁾されているが、通常の溝の幅よりも狭い溝でレコードが刻まれている。このレコードは雑音が多すぎて大変聞き難く、筆者の主観的な評価では、67枚の中でC評価とした9枚の一枚である。技術的には狭い幅で録音が可能であったが、再生音に混合される雑音が通常の溝の幅のものより明らかに多いので、あまり採用されなかったと考えられる。

グラフ2は曲名、当時の価格、作曲者名、音楽家名、録音年代、現在の価格へ換算された額と録音時間を表示している。レコード盤に販売価格を表示しているのは米国ビクター社のみで、少なくとも



グラフ1

4) Designated in Victor ledgers by the prefix “CC-,” indicating use of a finer-threaded lathe, thus more grooves per inch and a longer-playing record. (ビクターの台帳にCCから始まる接頭辞によって指示されており、さらに細い溝の幅が使用された事を示している。よって一インチあたりの溝の数が多く有るので、より長く演奏できるレコードとなる。)

も筆者が所有している英国グラムフォン社には価格表示は見られない。1906年のレコード1枚が1ドルであることは、現在の価格に変換⁵⁾すると28,10ドルとなる。1970年代のLPレコードの価格と対応するかもしれないが、1906年に発売された「Dinorh-Si, Carinacaprettina」のレコードの録音時間は、僅か3分23秒であり、一般庶民が一曲のレコードに約28ドルを出費するには勇気が必要であったろう。「Nocturne in E flat」はElmanのバイオリンとKahnのピアノ伴奏の黄金デュオである。筆者はこの曲を学生によく聴かせるが、LPレコードも聴いたことのない学生達が深く感動する一枚である。4分で一曲の幸せに約40ドルの価値があると買い求めた人はきっと多くいたのに違いない。Carusoが朗々と歌いElmanが添いながら奏でるAve Mariaは102ドルである。このレコードは筆者が蓄音器コンサートの最後に聴かせる曲であるが、人気の秘訣はKahnのAve Mariaは、Carusoが歌う唯一のAve Mariaであり、寄り添うように奏でるElmanのバイオリンと微かに聞こえてくるKahnのピアノは黄金トリオである。CarusoがBach/GounodやShubertのAve Mariaを録音したレコードは存在しない。これが筆者の長い間の疑問であったが、ある友人が「CarusoはKahnのAve Mariaが大好きじゃない」と語った事で問題は見事解決した。Lucia: Chi mi frenaはCarusoを含んだオペラ六重唱のレコードであり、1908年に7ドルで発売された。現在に換算すると192ドル43セントである。一曲でこの値段は法外かもしれないが、オペラ歌手全員へのロイヤルティと録音技術者の技術料を

表1

曲名	当時の価格(\$)	作曲者	音楽家名	録音年代	現在の価格(\$)	録音時間
Dinorh-Si, carinacaprettina	1.00	Meyerbeer	Giuseppina Huguet	1906	28.10	3分23秒
Sunshine song (Grieg)	1.25	Solvej's Lied	Lucy Isabelle Marsh	1912	32.59	6分10秒
When I get back to Bonnie Scotland	1.25	Harry Lauder	Harry Lauder accompanied by Victor Orchestra	1909	34.74	4分54秒
Nocturne in E flat	1.50	Chopin	Mischa Elman accompaniment by Percy B. Kahn	1911	39.93	4分4秒
Zapateado	1.50	Pablo de Sarasate	Jan Kubelik (piano accompaniment)	1911	39.93	3分27秒
Chanson d'Amour (Song of love)	3.00	Hollman	Emma Eames with 'cello obbligato by Hollman	1906	84.30	3分27秒
Good Bye	3.00	Paoli Tosti	Enrico Caruso accompaniment by Victor Orchestra	1910	79.86	4分13秒
Ave Maria	4.00	Percy Kahn	Enrico Caruso, violin obbligato by Mischa Elman, piano accomp. By Percy Kahn	1913	102.16	4分1秒
Lucia Chi mi frena	7.00	Donizetti	Sembrich-Caruso-Scotti-Journet-Severina-Daddi accompanied by Victor Orchestra	1908	192.43	4分2秒

5) <http://www.in2013dollars.com>

考えると安いのかもかもしれない。この価格がレーベル表示にどのように反映されたかは次章で述べる。

2. 赤レーベルは語る

表1によると Lucia Chi mi frena は赤レーベルレコードとして当時最高の価格で販売され、多くの人々の関心を奪った一枚であろう。筆者は六重唱の録音をラップ式録音でどのように実施されたかにより注目している。六人のオペラ歌手に対して六本のラップが用意されたのか、三人に対して2本のラップか、二人に対して3本なのか、それとも巨大なラップの前で六人が寄り添って録音したのかは不明である。しかし、そんなクレイジーな録音現場を想像して聞かたたびに、蓄音器によるレコード鑑賞はより味わい深いものになる。

レーベルの周りには「バッファロー、セントルイス、ポートランドの博覧会で最優秀賞を受賞」⁶⁾の文字が飛び込んでくる。そしてレコードの中心穴の周りには大賞受賞を示す GRAND PRIZE が記入されている。想像の域に過ぎないが、各地で開催された博覧会会場に音マニアが中心となり、イベントの一つとしてレコードコンサートが開催されたのかもかもしれない。そこでレコード大賞なるものがあつたのではないかと推測する。エッチング風のワンチャンマークが黄金色に輝いて中央に鎮座している。

裏面は頻度の使用により「注意書き」の文言が消えないように、長方形の部分がわずかに削られて金粉印刷されている。12-inch Victor Victrola Red Seal と書かれたトップ表示の真下には「注意書き」と明示され、その両側には「一枚、米国で7ドル」⁷⁾の価格表示が左右にある。この注意書きで面白い箇所が二つある。1箇所は「このレコードの複製を**する**べからず」⁸⁾である。110年前でも購入したレコードを原盤として不法コピーし、海賊版が出回っていたのかもかもしれない。もう一つは、「このレーベルを消すは、ライセンスに対して**不法行為**」⁹⁾である。誰かがこの「注意書き」を消したとしても、長方形にきざまれているので、当然「注意書き」の跡はしっかりと残るのである。

Aagaard (2014) によると 1902年4月11日に行われた Caruso の Germania の録音は再生速度が 71.43rpm と明記されてある。同資料では、1902年11月30日に実施された Caruso の FEDRA AMORTI VIETA のテスト盤録音では 74rpm と記されている。これは通常の 78rpm よりもかなり遅い設定となっており、曲をレコード一枚に収めるためにスピード調整を行ったのではないかと筆者は推測している。1908年2月7日に録音された Lucia¹⁰⁾ では、スピード設定が 82 となっている。これはレコード盤の溝に余裕があり、スピード設定を上げることにより、音質を向上させる意図があつたのではないかと考えられる。同様に 1920年4月30日に録音された Casals の Nocturne in E flat (Chopin) のスピード設定は 80rpm となっている。レコード盤にあるスピード設定に応じるべく、全

6) Awarded first prize Buffalo, St. Louis and Portland expositions

7) \$ 7.00 each U.S.A. price

8) Any attempt at copying, or counterfeiting, this record will be construed as a violation of these conditions.

9) any erasures on or removal of this label, will be construed as a violations of this license.

10) https://adp.library.ucsb.edu/index.php/matrix/detail/200006869/C-5052-Sextette_Chi_mi_frena



図2

ての蓄音器には回転調整のレバーが標準装備されており、絶対音感を持つ方々には最適な装備である。

2. エンジェルは語る

Enrico Carusoが1907年にオーケストラ伴奏で録音したオペラ Pagliacci(道化師)¹¹⁾ は、オペラの「衣装を身につけろ」(Vesti la giubba)の有名な一場面である。当時のオペラ界で話題となったこのレコードにある不滅の魂から111年前の世界を考察する。

横型振動のディスクレコードの発明者、Berlinerが1893年に米国で創設したUS Gramophone Companyの歴史は波乱に富んでいる。1894年には最初のレコードを発売した。その後1896年にFrank Seamanによって創設されたthe National Gramophone Companyとの間にレコードと蓄音器の販売権を共有したが、法的闘争で米国での販売権を失う事になる。そこでBerlinerらは英国でThe Gramophone Companyを1897年に設立した。このレコードは波乱の10年後に発表された。ビジネス闘争の波紋を受けながらも優れた音楽家と音響技術者は名盤と評価された作品を次々に生み出し、HMVの歴史を築き上げる基盤となった。Gramophone Monarch Recordのmonarchとは君主とか主権者を意味し、当時発売されたGramophone社のレコードの中でも最高の品質であると考えられていた。

このレコードは479gであり、筆者のコレクションの中で最大級である。LPレコードの約3倍の重

11) Leoncavallo作曲, Vesti la giubba (衣装を着けろ)の場面が録音されている。なおこのレコードは、「nipperは主人の声を聞いていたか」(名古屋学院大学論集 社会科学篇 第52巻 第4号)で解説済みであるが、レコード重量が筆者所有のコレクションの中で最大であるので、今回は更に新しい視点を解説している。

SP レコードは語る(1)

さがあり、実に持ちごたえのあるレコードである。レコードは重たいので、バネで駆動するターンテーブルの回転が安定し、しかも割れにくい。1920年代以降の電気式録音のレコード盤は時代と共に薄くなる傾向であり、筆者はレコードを触っただけで割ってしまうような苦い経験を何十回としている。AR盤に関しては一枚も割った経験はない。深い溝に音が刻まれているので、特に竹針やサボテン針などで聴く際には溝に針を落としても溝の中に入らないので、軽く押す必要のあるレコードである。10インチのエジソン・ダイヤモンドディスクの444gよりも重たく、正にレコードの君主だと感じさせる一枚である。

剥げかかった薄ピンク色のレーベルの2箇所にもGramophoneの表記があり、その内の一つはManufactured by The Gramophone and Typewriter Ltd., and Sister Companies.と表記されている。レコード会社がTypewriterの販売にも関与していた事になる。グラモフォン社が複合経営をして利潤が上昇したかどうかは不明だが、レコードの販売を阻止しようとするエジソンの蓄音器と蝸管、セルロイド管を販売していたEdison Bell社との間の法的闘争費用を補填する為、多角経営となり、この表記は数年間レコードに明記された¹²⁾。当時の商標登録を獲得して販売権利を確保する為に優れた経営能力と十分な事業費用が必要であったことを教えてくれる表示である。しかしSister Companiesが一体どのような会社であるかは不明である。

TENOR w. Orch.と表示されてあるが、具体的にどのオーケストラであるかを明記していない場合が初期の録音に多い。ラップ吹き込みの時代には、オーケストラの録音は大変工夫が必要であった。例えば、バイオリンはバイオリン取り付けられた小型のラップを大型のラップに向かって演奏し、バイオリンの高音が十分に録音されるような工夫がなされた。従って、この時代ではオーケスト



図1

12) https://en.wikipedia.org/wiki/Edison_Bell

ラに質の高い演奏があっても、レコードでは全く認識できなかったのである。CarusoのO Sole Mioを聴く場合、間奏の合間にCarusoが録音のラッパから顔を外すと突如としてオーケストラ伴奏が明確に聞こえ、Carusoがラッパの前に立ちはだかるとオーケストラ音は自然と減少するという具合である。26枚のオーケストラ伴奏があるレコードで、オーケストラ名が明記されているのは、Victor Orchestraと記された4枚のみであり、オーケストラ名が明記されて評価の対象となるには1920年以降の電気録音が導入されてからである。

Recording Angelはレーベル側に印刷されたものが一つ、裏面は円形のGRAMOPHONE二文字の中にRecording Angelの絵が盤に深く刻み込まれて、存在感を漂わせている。Recording Angelは1898年にGramophone CompanyのTheodore Birnbaumによって考案され、1900年から1908年までレーベルの主要なアイコンとして使用された。このデザインはマラキ書3章16節の「その時、主を恐れる者たちが互いに語り合った。主は耳を傾けて、これらを聞かれた。主を恐れ、主の御名を尊ぶ者達の為に、主の前で記憶の書が記された。」から由来していると考えられる。主の前で記録しているのは天使である。音楽家達が心を込めて演奏した音楽は振動という物理的な手段によってレコードの溝に彫刻のように立体的に創作され、ダイヤモンドや竹、サボテン、鉄の針によって振動が再創造されて蘇生するのである。

最後に

出エジプト記の31章18節には「こうして主は、シナイ山でモーセと語り終えられた時、さとの板を二枚、すなわち神の指で書き記された石の板をモーセにお授けになった。」と記されている。また、出エジプト32章15,16節には「板は両面に、すなわち表と裏に書かれていた。その板は神の作であった。その筆跡は神の筆跡で、その板に刻まれていた。」十戒の記録方法と同様、天使の指でレコード盤に書き記すのが記録天使の存在である。そして、この石板は片面盤ではなく、両面盤なのである。

レコードは偉大である。何故ならあのレコード盤に彫刻として彫り込まれた音楽も言葉も鋭い針を持って蘇生されるからである。今日も主から受ける言葉を心の板に刻みつける事を心しよう。そして片面盤だけの作業ではなく表も裏にもしっかりと永遠の言葉を刻みつけよう。人目には見えない所で行われるこのような業があって初めて、人に話しかける時に心の裏表の板に刻みつけることが可能なのだ。レコードを聴くのは、不滅の魂との饗宴である。レコードを聴くのは、永遠との対話なのだ。

「蓄音機には嘘がない。だから、眼を閉じれば近くに演奏家を感じる事が出来た。最近の音楽は良く聞こえるようにする事に集中しすぎている。

技術の進化とは、同時に感性の退化なのかもしれない」

—蓄音器を聴いた学生のコメント—

参考文献

Berliner, Emile. 1888. "The Gramophone: Etching the Human Voice." *Journal of the Franklin Institute* (June): 425-47.

Aagaard, "Tenor, Enrico Caruso, Recording from 1902-1920, An illustrated Label Collection", <http://www.thediscographer.dk/opera/caruso-menu.htm>

生明俊雄, 2010, 「メディア技術の進展と日本の音楽録音スタジオの変化」, 広島経済大学研究論集, 第32巻4号